魔法先生ネギま!俺は最強の菌になりました

八ヶ岳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
魔法先生ネギま！俺は最強の菌になりました

【Ｎコード】
Ｎ６４０６Ｗ

【作者名】
八ヶ岳

【あらすじ】
主人公は転生する。魔法先生ネギま！の世界にだが主人公が思う最強は変わりすぎていた。もやしもんを読んだ日から。
ネギ？風邪にしてやんよ。転生者？足を水虫にしてやんよ。
紅き翼？興味ないね。造物主？新種の菌の実験台にしてやんよ。
一部自己設定があるのでご注意を
さらにいろいろな意味でチートです
こんなネギまは嫌な方はご注意を

プロローグ？（前書き）

すいません
もうがまんできませんでした。
そして神様口調が途中で崩壊

プロローグ？

俺は死んだはずだったんだが？
「あ、起きましたね」
俺の死因は未発見の菌だったんだがやはり菌最強説はあっていたか。
「あのう、こっちみてくれませんかね？」
「む、どこにもいないじゃないか」
「え、いやあなたが思う神の姿なんですが……」
「そうかならばこれが必要だな」
「え、いやなぜ顕微鏡を？」
はあ、だめだなこの神は。
「いやあなたが思う神になっているはずなんですが」
「準備完了。あとはみるだけだ」
「スルーですか。あなたが神をどういう風にみてるかだんだん分かってきたんですが……違いますよね！違いますよね！肯定しないでくださいよ！お願いですから！」
「いや大体あってると思うよ」
「肯定したよ！この人肯定しないでくださいってお願いしたのに！マジで肯定しやがったよ。まだゲテモン想像してくれた方が良かったよ！」
「おっ、さすが神だけあって未知の菌だな」
「言った。こいつまじで言いやがったよ。せめて現実逃避できるようにその言葉は言われないように言葉を慎重に選んだのにさあ。てか神なのに菌ごときにならないといけないんだよ」
「菌【ごとき】だとぉ？菌のすごさをてめえに分からせてやんよ」
「ひぃいいい」
しばらくお待ちください
そういうわけで閑話休題

「すいませんすいません菌をバカにしてすいませんほんとうにすいません菌をばバカにしてすいませんすいませんすいません……」
「まあいい。何で俺をここにつれてきた」
「暇つぶしに転生させようかと」
「そうか、ならさっさとしようか」
「あなたは話が簡単に通じて楽ですね」
「他にも転生したやついんのか？」
「ええ、まあ［銀髪の超イケメンでオッドアイにしてニコポ・ナデポをくれ］とか言いやがったから元いた輪廻の輪に強制でもどしましたけど」
「そいつバカだろ」
「ええ、そうです」
「まあいいで転生ってどうやるんだ？」
「じゃあ願いを４つ言ってください」
「不老で俺を菌にして俺がなりたい菌の効果になれるようにしてくれ」
「あなたなんで菌関係が多いんですか？」
「ああ、そりゃあ【もやしもん】読んだときに菌ってすげえなあと思ったからだよ」
「そうですか、最後のを言ってください」
「白亜紀に送ってくれ」
「ではでは送りますね」
「そうそう質問するが俺が行く世界に神が送った転生者はいるか？」
「ええ、いますよ。数人他の神が送りました」
「そうか」
「じゃあその扉をくぐると転生できます」
「じゃあ行ってくるわ」
「では楽しい来世をお過ごしください」
そして主人公は扉をくぐって転生した
「行きましたか」

「さて今度転生させるのが菌などに見えないように神殿などを建てたりしませんと。はぁ、がんばりますか」

菌は八つ当たりをするそうです（前書き）

『』はＧＯＤ（ゴッド）からの電波？やしゃべっているときで、
≪≫は菌がしゃべるときで、
ティラノなどの動物？がしゃべるときは □ です
主人公が途中から外道っぽい
そしてティラノくんとＧＯＤ（ゴッド）には合掌ｗｗ

菌は八つ当たりをするそうです

白亜紀の上空についた。
菌だから大丈夫。だいじょうｂ『この手紙を読んでいることはついたようだね。それと仕返しの意味もこめて普段は生身だから普通に死ぬからね。では良い菌生を。追伸　菌になるには「ＧＯＤ様最強でイケメンで洗脳してごめんなさい」っていわないと無理ですｂｙ尊敬されるＧＯＤより』じぇねえーー！！
「ちょ、やばいんですけど」
はぁ？ふざけんなよ。イラっとくんな。あとでかもすぞ。ごらっ。
まあ今の状況はぁあああああああああああ
「もう気合じゃぁああアアアア」（このときになったのは白癬菌。単行本のもやしもん一巻Ｐ．５０ページ）
セーフ！！
だけどさぁ。なんで目の前にティラノサウルスがいるんですか？しかもこっち見てるんですけど。
『そりゃあ、君はまだ能力が使いこなせていないからだよｂｙイケメンな神より』
まじかよ……でもなぁティラノとＧＯＤてめえらは菌の力を誤った。さあ菌の力を見せてやろう
「白癬菌右手分裂！！！！」
≪かもすぞー≫
≪かもす、かもす≫
≪かもして幸せに暮らすんだ≫
「さあ、かもそうか」
かもし中なため
誰にも見せれません
ティラノサウルスがかもされているため閑話休題
そして数日後のティラノサウルスクンは……

「っおーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー（足がーーーー）」
「っおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお（足がいてえよー）」
「ッオーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー（だれがぁだずげでぇ）」
「治してやろうか？」
「ぎゃうぎゃう（なおじてくだしゃい）」
「治してほしいなら首を縦にふｒ［ぶんぶんぶぶぶぶぶぶぶぶぶ］よし直してやろう」
そのころのＧＯＤ（ゴッド）は………………
『菌ごときがＧＯＤ（ゴッド）　ＰＯＷＥＲ（パウワー）なめんじゃねぇぞごらぁ』
『治れ』
テンテカテーン♪
ＧＯＤ（ゴッド）は水虫が治った
そしてまたかかってしまった
『治れ』
テンテカテーン♪
ＧＯＤ（ゴッド）は水虫が治った
そしてまたかかってしまった
治してかかって治してかかって
神様は仕事が当分できなかったそうな

続く？

菌は八つ当たりをするそうです（後書き）

少し編集しました。
そしてｗｉｋｉで調べたらかなり痛いようです。

修行報告？？（前書き）

今度から菌の被害報告をしようと思う（悪笑）
そして今回自己解釈ＭＡＸスピードで行きます。

修行報告??

前回のあらすじ（笑）
ティラノくんが水虫に（八つ当たり）
ＧＯＤ（ゴッド）が新型の水虫に（自業自得）
≪僕たち乳酸菌の出番がほとんどないじゃないか！≫
≪当分は僕たち白癬菌（はくせんきん）の出番さ≫
≪≪な、なんですとぉーー？！≫≫

魔法先生ネギま！俺は最強の菌になりました　修行報告??

さて俺はいきなりすぎるが修行をしようと思う。なぜって？それは……

『君が僕が治しても治しても水虫になる未発見の菌のせいで仕事が出来なくなったため部下の苦情が酷いから君が菌の操作するレベルが上がったら未発見の菌を操作できるようにさせてもらったよ。
　ｂｙ水虫にまだやられているＧＯＤ（ゴッド）』だそうだ

ふざけんなよと思ったがあきらめることにした。
だから修行をしないといけないこれはこれでまた新しい操作方法が思い浮かぶと思う。というか思いついた（笑）
それは菌を普通の人が顕微鏡を使わなくても見えるほどに圧縮することを。これをすればたとえばだが一分もたたないうちに風邪になったりするだろう。
だから今日から菌の圧縮を練習しようと思う。

そして一年後
圧縮はできてきたが自分の圧縮の理想には到達していない。それと体力づくりもはじめた。なぜかって？そりゃあ一回襲われたんだよ一応逃げたけど体力がなさすぎて喰われたからな。つっても食われ

た後ライノウイルス（単行本一巻登場）になって増殖してでてきたんだけどな（悪笑）

それから三十年後
圧縮できるようになったといっても米粒程度なのだがそれと体力がはんぱなくあがったというかどこまで走れるかやってみたら未来の日本からアメリカまで走れた（笑）今度は海の上も走れるようになるかもしれんな。

さらに六十年後
やっとこさ菌が米粒からビー玉になった。体力は最近上がりにくくなったから握力でも強くしようと思う。さいわい足腰はかなり鍛えられているから――――――――（文字がかすれていて読めないようだ）

修行報告??は終わる

今回までの菌の被害報告
神様→一時的に洗脳される・凶悪な水虫に・仕事ができない
ティラノサウルス→八つ当たりで水虫に

修行報告？？（後書き）

もやしもんで初めて登場した菌の初めて登場したページ数を数えるのがめんどくさいんで（発見された菌の種類の数が多いから無理）今回から登場した単行本の巻だけ言わしてもらいます。

修行報告？？（前書き）

亀更新で駄文はきついなぁ（さらに短いとは）。

修行報告??

前回のあらすじ

誰もかもしてません（ウソですが）

≪面白みがないよね≫
≪というかさ僕たちの出番があらすじとかひどいよね≫
≪作者かもさない？≫
≪≪さんせい～≫≫
作者はかもされたかはわかりませんが

魔法先生ネギま！俺は最強の菌になりました　修行報告??

百年後
やっとビー玉から髪の毛ぐらいの長さが出てきた。
……気長に修行しようと思った。
握力と脚力はかなり上がってんのになぁ

そして二百年後
つ、疲れたぁー。やっとビー玉＋髪の毛（一本）の大きさからビー玉が一回り大きくなった。

たんたんと千年後
……やっと野球のボールの大きさになった……

残酷な三千年後

……や……っ……と……サッカ……
……ーボ――――――――（途切れている）

未成年はお酒を飲めま五千年後
やったよーん。最近は急激に伸びすぎて家の大きさになったよーん。
ってなんでだぁーーーー。

観察している罪人の報告書より

『ッチィ。糞野郎ガァ。あの罪人は消滅させるはずだというのに。
あの罪人を送りやがって。前回の・・・・・・であいつは元にもど
すはずだったというのに。に送りやがったって。まぁあの馬鹿以下
上司が水虫にかかったり洗脳されたりしたのは見ものだったが……
……。ッチィ、それに語り奴隷まで来やがったか。今度の・・・・・
・は最悪だな。すまねぇが仕事だ。語り奴隷を殺してきてくれ××
××（話の内容は途切れている）』

修行編はまだ終わらない！？

修行報告？？（後書き）

アンケートという名の説明をください（自分でも一応調べますが）
≪だめだめじゃん……≫（だが菌が何を言っているのかは作者には聞こえていない）
白亜紀の始まりから終わりまで何億年でしたっけ？≪駄作者なんてかもしてもいいよね≫
こんな面白い小説とかを読んだ後テンションが上がりすぎて意識がなくなって意味が分からない感想を書くような駄読者が駄文で亀に失礼なほど遅い更新をお気に入りに入れてくれてありがとうございます。≪かもすことにしたけど後がきをやってるからかもせないんだよなぁ～。仲間を呼んだのにさぁ。早くかもしたいなぁ～≫

『消滅したい』（前書き）

あけましておめでとうございます。
更新遅くてすいませんでした。
それなのに番外編で本当にすいません。

『消滅したい』

『消滅がしたい』
『なぜだ？こんなに快適だろうが』
『消滅がしたい』
『なぜだ？神よりは力が弱いが、人間どもをわざと殺して、力を与え、人間どもが自分で作ったと思ってい　る漫画や小説の源になった世界や似た世界におとし。なりたかったもの、したかったことをして、死ぬと　き真実をしり絶望をした顔が最高じゃないか。なあ』
『黙れ』
『は？』
『元々は同じ人だったくせになぁ。それに神とお前は言っているがあれも元々は人だったのにな。いまじゃ　力というなの幻想にとりつかれ、そして振りかざしゲームのように命を弄ぶ（もてあそ）存在までになった。そしてそんな末路が俺やお前たちだろう。まぁ、そりゃぁお前が言ったことをやっているやつが大半だ。』
『誰があんな下等生物と一緒にされなきゃいけないんだ！！お前なんか消滅さしてやる。』
『まったくお前は消滅できないことも覚えてもいないのか。だからお前は第二十四回目のゲームで一番最初に殺されたんだよ。』
『黙れぇぇぇぇぇぇぇ！！！！！！！！第一回目で優勝できたからっていい気になりやがってぇ！！』
『お前は本当にアホだよな。いい気になってたら消滅なんてしようと思わないだろうが』
「まただね。」
「神以外は勝てないのにね。まぁ奴隷零号が言っているように神も神じゃなくて人なんだけどね。」
「それにこの空間と今やってるゲームの回数と奴隷の人数と神の消滅方法を把握して仕事も一回もせずに消　滅させられない存在だよ

ね」
「まぁ、それを知らないでいい気になってた奴隷二十四ー一万一号は話しかけて切れたんだよな。切れたの　って奴隷二十四ー一万一号で一万回目だね。あとでなんかあげよう。」
「あっ、終わったみたいだよ。まぁ結果は当然だけどね」
「ねぇ、仕事から奴隷四百万ー一号が帰ってきたよ」
「ちがうよ、奴隷三百万ー二号だよ。」
「はぁ、お前らよくまぁそれで仕事が勤まるな。そいつは奴隷五百万ー零号だろうが。」
「あっ、奴隷零号さんありがとうございます。五百万回目のゲームの優勝者でしたか。」
「お前らってため口をするのは双子で話してるときか。」
「はい、そうですが何か問題でもありましたか？」
「いや、うん気にするな」
「あ、すいませんが奴隷五千百万十一ー三百四十号が記憶消去させられそうなので行って来てください。」
「ことわったら？」
「迷(めい)って人が第一億九千九百九十九万九千九百九十九回目のゲームに出場させようと思ってるらし　いですよ。第二十三万神(だいにじゅうさんまんしん)がゲームに出場させるものを殺すときに零点零瞬　で殺すものと入れ替えてですが。」
「別に俺は出場はいいんだけどな。奴隷五千百万十一ー三百四十号が記憶消去されても」
「そうですか。」
「では九千九百九十九回目から一万回目の出場になります。」
「あっ、言い忘れましたがあなたが出場される場合は二次小説の小説家になろうで人が思う駄文で出場しなければなりませんが宜しいですか？ちなみにスパイによって二回目の出場となる菌王(キング)がも　のごろしとして記憶消去で出場されています。ちなみにですが奴隷一億九千九百九十九万九千九百九十八ー一万一号が菌王(キング)によって一番

最初に殺されたため駄文になって二次小説を書きたく思わせられた小説家になろうのＩＤ（アイディー）１３７５２１の八ヶ岳に送っています。」
「ちなみに奴隷一億九千九百九十九万九千九百九十八ー一万一号を奴隷零号は殺してもよいと迷（メイ）と名　乗る方がおっしゃっていますので殺せばここに仕事失敗で戻ってきますので違う方が行きますので駄文では　なくなり題名とタグと主人公も変わるかと。」
「では、お気をつけていってらっしゃいませ奴隷零号」
「行ってくる」
「ふぅ、行ったね」
「うん、そうだね」
「あ、見てみて奴隷二十四ー一万一号が起きたみたいだよ」
「なにあげる？」
「もう、自分が言ったんだから自分で決めなきゃだめだよ」
「う～ん。そうだ。じゃあもう一回だけゲームに出場できるチャンスをあげよう」
「迷様に言わないとだめだよ。迷様はいいよって言うと思うけど。」
「あっ、見てみて迷様が奴隷二十四ー一万一号が泥とお菓子とおならにつつまれてるよ」
「うわぁ、迷様って時々嫌な送り方するよね。」
「第二十三万一神もかわいそうだね。嫌々ながらゲームに参加させるのを殺さないといけないのが泥とお菓子とおならのにおいがするなんてね。」
「うん、トラウマになってそうだよね」

『消滅したい』　完

ここからは解説コーナーです。
「解説役の第一回目のゲームで準優勝した奴隷一号です。よろしくね☆」
迷（メイ）と名乗る者は元々は生きるということが嫌いな者が死んで二次元

と三次元の狭間の無で迷子になり二次元に来てしまった者。人が神と思っている力を得てこの空間と二次元と三次元の狭間にいた者を自分が得た力の劣化版を与えた。
菌王(キング)などのように、ゲームを否定して送った者たちもいるようだ。
「ちなみに解説役を頼んだのは迷子の迷子の迷(メイ)さんです。」
「それと迷(メイ)と名乗る理由は迷子の迷からとったそうです。単純で笑いすぎてしまいました。」
「次の話で解説することがあったら会おうね。バイバ〜イ☆」

奴隷一億九千九百九万九千九百九十八二一万一号任務失敗（前書き）

短くてすいません。

奴隷一億九千九百九万九千九百九十八ー一万一号任務失敗

『菌王（キング）が今回のゲームで現れると知ったとき俺はすぐさまこの仕事を受けた・・・・・・』
［なぜならば、駄文にして見せ場をぐしゃぐしゃの意味不明にしてやろうと思ったからだ。］
『俺が言ってんだからてめぇは黙ってろ!!』
［てめぇが一息ついたから悪いんだろボケが］
そう言って口ゲンカをはじめたのは奴隷一億九千九百九十九万九千九百九十八ー一万一号という猫の百倍ぐらいの大きさの顔が二つあるのですが犬ではないのでケロベロスの弟と言われているオルトロスとは言えません（まあ本当かは【迷（メイ）】のみぞしるですが）。そのためネコベロス（アホ）と言いましょう。
えっ?なぜネコベロス（アホ）ではない他の奴隷が入るかって?それはあの双子が「ネコベロス（アホ）はもう少しで殺されて強制任務失敗になるので奴隷壱号。あなたが行って下さい。まあ記憶消去でもの手がへるよりはましですが・・・・・・・・・・・・」と言ったからです。双子の命令は一部を除いて絶対です。
もうそろそろで殺されるらしいんですが・・・・・・・・・・・・・・・
あ、ネコベロス（片方のアホ）が殺されました
『おい、なんで殺されてやがる!!!誰だ?!出て来いニー?!』
ネコベロス（切れて最後にニーと鳴く?アホ）がキレテマスね。最後らへんの口調が増えましたし。
『ぐほっ、あいつより俺の方が出番が多かったから勝ったニー!!』
そんなことで喜ぶなんてネコベロス（アホ）からアホベロスで十分でしょう（ネコに失礼ですし）。
「奴隷壱号、任務失敗したあいつが書いたプロローグから修正しろ」
「消滅さんめんどくさいから嫌です」

「また、お前は俺にもあだ名をつけるのか」
「え～、だってもうすぐ二億になるんですよ。しかも奴隷の数は二億カケル一万一をしなきゃいけないんですよ。めんどくさいじゃないですか。」
「神に昇格（ップ）・・・・・・・・・・・・てめぇ今【神に昇格】って言おうとしたところでかっことップをつけただろ」
そう奴隷壱号は奴隷と神をおちょくるのが大好きなのだ。迷（メイ）には忠誠？を誓ってはいますが。
「奴隷壱号俺はもう行く」
「僕は奴隷壱号じゃなくていちいちいちいちいちいちいちってあだ名で呼んでほしいっていつも言ってるじゃないですか」
「あ、無視しないでよ～」
ですが奴隷壱号の声が届かないように自分の能力をつかってどっかに行ってしまいました。
「だから僕はいちいちいちいちいちいちって呼んでって言ってるじゃないですか」
こういう奴隷を見かけたら奴隷専用１１０番までお電話を
「そこは暇だから僕はもう行きたくないなぁ～」
仕事をしない奴隷をみつけたら特別製電話マイゴで１１５にお電話を
「今回途中から迷（メイ）様が書いてるでしょ？！」
・・・・・・・・・・・・・・・

奴隷一億九千九百九十九万九千九百九十八一一万一号任務失敗　強制的に完
「え～そんなぁ～」

「ここからは解説役の俺、奴隷一号の独壇場だぜ☆」

え？前回一回目のゲームで準優勝したって言ってたけどなんで今回奴隷壱号が出たの？
「それはだな」
早く言えよ屑
「屑は酷くねぇか？俺は誇りある解説役の奴隷一号だぜ☆」
☆うぜぇ
「もう気にしないでパッパと仕事をするぜ☆」
・・・・・・・・・・・・（彼はもう寝ている）
「ちなみに俺は準優勝じゃなくて準々優勝だったはずが今の奴隷壱号が優勝すると1号じゃなくて0号になるから嫌で自殺しようとしたらあいつの持っている一つの能力が発動したんだぜ☆」
「その能力は『自殺しようとしたら何位関係なく絶対に壱号になる』っていう能力なんだぜ☆」
「それと奴隷壱号はその能力は知らなかったんだぜ☆」
は？なんでだ？（起きた）
「その理由はだな・・・・・・・☆」
・・・・・・・・・・・・・（腹減った）
「能力はクジで決まるんだが、決めるクジは10種類あるんだが最初の一種類は自分にふさわしい能力がもらえるんだぜ☆」
関係ねぇな。おい
「おいおい、話は最後まで聞こうぜ☆」
文字数かせぎかこの野郎
「そんなけち臭い理由じゃねぇよ☆説明することが多くて文字数が長くなるんだよ☆」
「まぁ、話が脱線したが奴隷壱号の能力はゲームのルールを覆すから奴隷になるまで読めないんだよ。」
それでも準優勝には変わりはねぇからお前は奴隷二号だろ
「それがな優勝しゃだけは奴隷何とか零号というように0が漢字になるんだが1までもが漢字だと迷様は嫌何だよ☆」
わがまま・・・・・・・・・・・・・

「そのため一番目の最下位は奴隷一万号のように順位が一つ上がって俺は準優勝になったんだよ☆」
えっゲームの意味がない。
「まぁそんなクジはもう入ってないも同然だけどな☆」
なんで確信できるんだ？
「一番最初のクジだけは無限にあって一つに等しいんだよ☆」
説明になってねぇ
「今言ったのはだなぁ。つまり☆」
どうした？
「いや、迷様（メイ）がそろそろ本編よりも解説が長くなりそうだから途中でもやめろ。だそうだ☆」
え～（よっしゃあ。飯食いに行ける）
「解説を途中で終えるのは心苦しいが迷様（メイ）の命令が一番大事だからな☆」
「じゃあな☆」

奴隷一億九千九百九万九千九百九十八二一万一号任務失敗（後書き）

すいませんでした。解説が途中で終わってすいませんでした。ゴフッ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6406w/

魔法先生ネギま!俺は最強の菌になりました

2012年1月6日10時46分発行